

第54回アブダクション研究会のご案内

アブダクション研究会
世話人 福永 征夫
TEL & FAX 0774-65-5382
E-mail : jrfd117@ybb.ne.jp

第54回アブダクション研究会の開催について、下記の通りご案内を申し上げます。

前回は、創立20周年に向けて、『アブダクション研究を展望』いたしました。

まず、(1) 福永によるビジョンの提案があり、

- ① 人間の営みの部分の最適と全体の最適を矛盾なく達成して、人間の『省資源・省エネルギー』の営みをラティスの構造として実現することが重要。
 - ② そのためには、人間の、アブダクションを実現する能力を進化させなければならない。
 - ③ アブダクションとは、『既存の領域的な知では説明できない不可思議な事物・事象に直面する一方で、別の事物・事象との遭遇をトリガーとして、新たな領域的な知を探索し積み重ね、既存の領域的な知との間に広域的な知を発見し、より高次の領域的な知を創造することによって、不可思議な事物・事象を説明可能なものにするところの蓋然的な推論』である。
 - ④ 将来は『Non-topocentric Open University of Researching Abduction (アブダクション研究自由大学)』が各地で開かれるように、力を合わせ、他の人々の協力も得て、努力をしたい。
- という話。

ついで、(2) 3つ目の分科会として、[健康および生活の科学とアブダクション分科会] の設立が決定され、小島保彦氏が委員長を担当(委員長代理として太田哲夫氏が補佐)されることとなった。各分科会のキックオフを控えて、尾上彰、村上忠良、小島保彦の各委員長からご挨拶をいただいた。

さらに、(3) 研究に伴う、今後の記録と広報のあり方に関する重要な意見交換がなされ、向こう2ヵ年以内を目途に体制を完備することとし、HP の構築を中心に、尾上彰プロジェクト長のご指導を受けることになった。

また、(4) アブダクション研究を展望して、各メンバーから、様々な、前向きな意見や提案が示され、それぞれにつき、意見交換をして、方向付けが図られた。

なお、(5) 研野和人氏からは、アブダクション研究の課題に関して、高いレベルのご経験とご見識に立脚された意義深いお話があった。

新たなメンバーとして、日立製作所ご出身の太田吉美氏が参加されました。設計支援システムの研究開発などをご専門にしてこられ、現在は、技術知識基盤構築機構の設立準備に当たっておられます。末永く、中核メンバーとしてご活躍していただくよう心からご期待を申し上げる次第であります。

既存の領域的な知をベースにして、新たな領域的な知を探索し、それらを広域的な知に組み換えて、より

高次の領域的な知を仮説設定的に発見することを目標に、アブダクション研究の飛躍を期して参りますので、各界、各分野の皆様の積極的なご参加をお願いします。

記

◇ 日 時 : 2007年3月17日(土) 13:00~17:00
(例会の後、17:20~19:20まで懇親会)

◇ 場 所 : 日本電気厚生年金基金会館 2F『大』会議室
(中山氏の名前で申し込み)
東京都世田谷区代沢5丁目33-12
* 小田急線/京王井の頭線 下北沢駅 下車 徒歩約8分
* 会場地図をご希望の方は、事務局・太田までご連絡下さい。

◇ テーマ : 研究発表 坂 幸子 氏 (アトリエ学林)
『造形と想像的創造性』
—表現する心がつくり出す想像的創造性を子供の造形過程を見ながら考察する—